

# 赤堀老人いこいの家廃止撤回を求める

福祉プラザ、境社会福祉センター（女塚）も廃止し入浴施設を2カ所に削減計画



廃止案が出されている老人いこいの家

役所内部の「検討会」で、柴町のふれあいセンター別館と赤堀老人いこいの家を今年度で廃止する考えが明らかにされました。

いこいの家はボイラーが故障して6月からお風呂が使えませんでした。「議会で補正予算が通ったら修繕する」と説明され再開が待たれていました。

「どうせ壊すのだから」と市長から修繕費の補正予算が認められず、利用者を3か月もだまし続け、裏で廃止の手続きを進めてきたのです。

それでは忍びないと担当部署で四苦八苦し、課にある修繕

## 介護保険 11億のため込み

昨年、共産党議員団は「介護保険料は黒字で値上げの必要はない」と値上げに反対しましたが、値上げが強行されました。

年度末3億5千万円の余剰が出て、介護準備基金は11億3千万円に。年金から有無を言えず天引きされ、値上げで悲鳴を上げる庶民の声を、市は聴く耳なしです。

費15万円と社会福祉協議会が15万円を出し合い、やっと10月再開の見通しとなりましたが3月までと。

いこいの家で開かれた説明会では、高齢者の居場所づくりを進めると言いながら、居場所を無くす市のやり方に、厳しい批判の声が続々と出されました。

12月定例会に提案予定ですが、市は将来「入浴施設はいこいの家を手始めに3施設を廃止し、2施設（あずまみやまセンター・伊勢崎ふれあいセンター）とする」との考えも明らかにしております。

「第3子出産祝い金廃止」が市民の声で撤回されたように、住民が声を上げれば撤回できます。

## 議会エピソード 16

市財政が大変と暮らし福祉の予算を削る動きが強まっています。そんな中で決算審議では企業が社会貢献で行っている、地域人材育成事業の補助金が話題に。

7回の講座に1千万円近い講師料との説明に議会でも驚きの声。市が300万円を補助し受講生と主催者3者で出し合っています。

経営者や幹部社員22名ほどがビジネススクール形式の講義を受講、異業種交流も進み人材育成に役立っているそうです。300万円といえば一人14万円近い補助金です。伊勢崎だけでなく本庄、前橋、渋川、太田、桐生などからも受講生が。周辺市も含め将来発展の投資として300万円は安いものということでしょうか？

なんと懐の深い市ではありませんか。この懐の深さを不登校対策など市の将来を担う子供達にも見せてほしいものです。 (K)

## 無料法律生活相談会

毎月第4月曜日午後6時より  
弁護士と市議が同席します  
お申し込みは下記市議まで



北島 元雄

24-8410  
090-4065-2120  
波志江町3626



長谷田 公子

25-1130  
070-5564-6271  
八幡町44